

「青年海外協力隊」

宮田 賢さん

Miyata Ken

「算数が苦手」
その原因はいろいろ

ニュージールランドから北へ2300キロの太平洋に浮かぶ島国、サモア。最も面積が大きいサバイ島にあるタガ小学校で、教員として活動しているのが青年海外協力隊の宮田賢さんだ。大学時代のボランティア活動で、子どものサマーキャンプや自然体験プログラムの企画・実施などを経験してから、子どもにかかわる仕事に就きたいと考えるようになり、小学校教諭の道へ。協力隊には「いつか参加したい」と思い描きながらも、その一歩が踏み出せずにいた。しかし、教員となって1年半たったころ、「頭で考えていてもだめ。関心があるなら行ってみなよ」という協力隊OBの言葉に後押しされて決意した。

JICA Volunteer Story

PROFILE

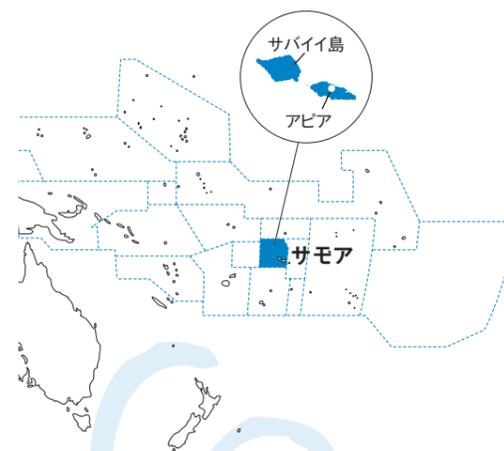
1982年福岡県出身。08年に九州工業大学情報工学部卒業後、福岡県嘉麻市立下山田小学校にて勤務。2011年1月から、青年海外協力隊(小学校教諭)としてサモアで活動中。

「子どもたちの理解に合わせた授業で「学ぶ楽しさ」を知ってもらいたい」

算数を苦手とする子どもが多いサモアでは、学力向上に向けて基礎教育の改善に取り組んでいる。その一翼を担うべく、小学校教諭として現地に派遣された青年海外協力隊の宮田賢さんは、子どもたちに学ぶ楽しさが伝わるような授業を実践している。



算数の授業の復習中。「一人一人をきちんとフォローすれば、児童の理解は格段に上がります」と宮田さん



小学校教諭としてサモアに赴任したのは2011年1月。現地に行つて分かったのは、算数が苦手な子どもが多いこと。「20までは手と足の指を使って数え、それ以上になるとノートに棒を書くんです。200÷5を計算したときなんて、棒を200本書き、5本ずつ丸で囲んで数えていました」と宮田さんは話す。

こうした状況が生まれるのは、先生の教え方に柔軟性がないことが一因だ。例えば、日本では「5は2と3に、10は3と7に分けられる」というように数を「まとまり」としてとらえるように教えるが、サモアではただ数字を数え、延々と足していくだけ。暗算できるまで計算力を鍛えようという考えがないため、筆算も文章問題もできない。また、先生は「何回目の授業にはこの項目を教える」と決められたカリキュラムに従うだけのことが多く、子どもたちが理解しているかどうかに関係なく、次の内容に進んでしまうのだ。

児童にも先生にも理解する楽しさを伝える

「九九の2の段から5の段までを書く掛け算テストをします。制限時間は10分間。よい、始め！」
宮田さんの掛け声に、真剣な表情で取り組む子どもたち。子どもたちの学力を向上させたい。そのため宮田さんは、授業内容の改善に取り組んでいる。「こうしたテストをすることで、最初は2の段しか書けなかった子が、3の段、4の段を書けるようになり、その時間もどんどん短くなります。『今日は7分30秒だ！すごい！次回は7分を切れるといいね！』と言うと、子どもたちはやる気に満ちた目になります。上達することがうれしくてたまらないようです」。また、子どもたちがあまり理解していないと思えば、次の授業では「復習する」ようにして



a.初めての掛け算テストに真剣に取り組む子どもたち。算数嫌いだっただけで「算数の授業、もっとやってよ!」と宮田さんに声をかけてくることも増えた
b.児童の数に対して教室が足りないため、学校内の多目的ホールで授業を行うこともある
c.掛け算テストの答案。以前から九九を歌で覚えている子どもは多かったが、テストをすることできちんと書けるようになった
d.算数を楽しみながら学べるようさまざまな工夫を凝らしている。高学年の子どもたちに手伝ってもらい、低学年用の九九カードを作成中

いる。「10回くらい練習問題を解くと、ほとんどの子が理解できるようになります」。
こうした宮田さんの授業スタイルは、サモアの先生たちの参考になっている。というのも、来年からカリキュラムが改訂され、決められた指導内容を何時間かけてどう教えるかは各教員に委ねられるからだ。「児童の理解度に合わせて授業内容を工夫する感覚を僕の実践を通して現地の先生たちにつかんでもらえたら」と宮田さんは話す。

しかし、これまでのスタイルを急に変えることはそう簡単ではない。そこで宮田さんは、先生たちに自分の授業に参加してもらうようにした。すると、普段発表などしない子が手を挙げたり、算数が苦手だったはずの子のノートにたくさん丸がつくようになる様子を見て、児童の理解力が上がっていることに先生たちが自然と気付くのだ。「そうやって、子どもたちの「学ぶ喜び」が先生たちにも伝わっていくのです」。

約1年間の活動を通じ、「算数嫌いだっただけで子どもたちが次第に楽しい」と思ってくれるようになった」と感じている宮田さん。
「ケン!今日は算数の授業がなかったけど、明日こそ僕たちのクラスに来てね!」。
活動期間は残り10カ月。こんな子どもたちの言葉がもっと増えるように、宮田さんは今後も授業を工夫していくつもりだ。

青年海外協力隊
シニア海外ボランティア
募集中!

全国約120会場で
体験談&説明会を開催
募集期間
4月1日(日)~5月14日(月)

www.jica.go.jp/volunteer/